

マウスでは脾細胞の INF- γ 産生が対照群に比べて高値を示した。強毒株原虫感染では TJ-48 投与の影響は全く認められなかった。

弱毒マラリア原虫感染における十全大補湯の抑制効果は、投薬が感染防御機構に関与する抗体産生と INF- γ の産生に影響を与えたことによると考えられた。

7. HBV の preS2 型の分類と臨床的意義

(消化器内科)

清水 健・西川瑞穂・梁 京賢・
宮園裕子・木村 知・春田郁子・
鴨川由美子・高津和子・古川隆二・
中西敏己・山内克巳・林 直諒

HBV の preS2 領域における最初の 39 個の核酸領域は変異に富み、その支配するアミノ酸配列から 3 タイプ (タイプ I, II, III) に分類できる。HLA A-24 陽性の B 型慢性肝炎患者ではタイプ I の preS2 領域を持つ HBV の感染によって肝障害が蜂起され、逆に preS2 領域の変異に伴い血清 ALT 値の減少を認めた。preS2 ペプチドおよび MHC クラス抗原 I をともに認識するキラー T 細胞が肝細胞障害に関与していると考えられた。

8. 免疫組織学的手法を用いた water channel の局在の検討

(第四内科)

川嶋 恵・川嶋 朗・新田孝作・
大図弘之・湯村和子・二瓶 宏

ラットの腎臓では現在までに CHIP28, WCHCD, GLIP, MIWC という 4 つの water channel が知られている。しかしそれらの細胞内局在および薬物投与などによるその局在の変化は明らかになっていない。今回我々は免疫組織学的手法を用いて光顕、電顕レベルでラット腎尿細管におけるそれらの局在とバソプレッシン投与によるその変化の検討を行った。CHIP28 は proximal tubule, thin descending limb の apical および basolateral membrane に局在, WCHCD はバソプレッシン投与により collecting duct の細胞質内から apical membrane に移動, そして GLIP と MIWC は collecting duct の basolateral membrane に局在することが確認された。

9. 早期慢性関節リウマチにおける HLA DRB1 遺伝子の検討

(膠原病リウマチ痛風センター)

樋上謙士・箱田雅之・松田祐子・
上田寛之・柏崎禎夫

〔目的〕 HLA DR 遺伝子座の慢性関節リウマチ (以下 RA) 発症および重症化因子としての役割を検討した。

〔方法〕 発症後 1 年未満の RA 65 例を早期 RA 群, RA が強く疑われるが RA に分類できない 74 例を疑い群とし, 末梢血白血球から DNA を抽出し, PCR-RFLP 法によって DRB1 対立遺伝子を解析した。対照群には日本 HLA ワークショップが報告した日本人 1,216 例を用いた。

〔結果・考察〕 早期 RA 群における DRB1*0101*0401*0405 の陽性率は対照群に比し有意に高く, また経過中に RA へ移行した疑い群 47 例では DRB1*0405 が対照群に比し有意に高い結果であった。以上より, DRB1 遺伝子座は RA の発症因子として働いていることが示唆された。早期 RA 46 例につき発症後 2.5 年での骨びらん数により軽症例, 重症例に分類し検討したが, 症例数も少なく DRB1 対立遺伝子陽性率に有意な差は認められなかった。

10. エルシニア感染症の原因菌である *Yersinia pseudotuberculosis* が産生する新規の細菌性スーパー抗原 *Y. pseudotuberculosis*-derived mitogen (YPM) 遺伝子のクローニング, その塩基配列および組み換え YPM の性質

(微生物学免疫学¹⁾, 北里研 細菌²⁾, 創価大 生命研³⁾)

秋山 徹¹⁾・阿部章夫²⁾・加藤秀人¹⁾・
川原一芳²⁾・成松 久³⁾・内山竹彦¹⁾

エルシニア感染症に重要な役割を果たすと考えられる新規の細菌性スーパー抗原 (*Y. pseudotuberculosis*-derived mitogen, YPM) の遺伝子を精製 YPM の N 末端アミノ酸配列をもとにクローニングした。y_{pm} 遺伝子を有する大腸菌は抗 YPM 抗体により抑制されるマイトジェン活性を示し, 天然型 YPM と同一分子量の組み換え YPM を発現していた。組み換え YPM による T 細胞の活性化は MHC クラス II 分子要求性であった。組み換え YPM により活性化される T 細胞の V β 特異性は V β 3, 9, 13.1, 13.2 であった。y_{pm} 遺伝子の塩基配列より YPM は 151 アミノ酸からなる分子量 16679 の前駆体がプロセッシングを受け, 131 アミノ酸からなる分子量 14529 の成熟型 YPM となることが分かった。YPM のアミノ酸配列は既知の蛋白質のそれと有意な相同性を示さなかった。以上から, 組み換え YPM は天然型と同一の生化学的・生物学的性質を有することが明らかとなった。